



写真のプロとして、楽しさを すばらしさを伝えていくビジネスを

町の写真屋さんとしてスタートし、その後ビジネスを拡大、現在では栃木県内に16店舗を構える、サトーカメラ(株)。地域に親しまれるビジネスのあり方を追求する同社の佐藤千秋社長に話を伺いました。

真の新しい楽しさを伝えたい。それにはどうしたらいいか、どんなビジネスを行なったらいいかと考え、少しずつシフトして行きました」

カメラやパソコン内に保

写

真の世界は、この10年ほどで大きく変わりました。最も大きな変化は、デジタルカメラの普及と、携帯電話のカメラ機能の充実でしょう。写真をより身近なものにしたこの変化は、カメラ販売を手がけて来たサトーカメラにとっても、重大なものだったと、佐藤社長は言います。

「フィルムカメラ時代のビジネスモデルは、カメラやフィルムを販売して、写真現像を手がけるというサイクルでした。それがデジタル時代となつて、大きく変わってしまった。

この経営理念を定めたのは約10年前、ちょうど変化が起り始めた時期です。今までのビジネスモデルは、将来崩れるだろう。その時どのような経営を行なわなくてはならないか、専務と何度も話し合いながら、新しい道を模索しました」

佐藤社長は「人はなぜカメラ

を買うのか、写真を撮るのか」と考えたといいます。その答えは「思い出を残したいから」でした。では、お客さまのその思いに、写真のプロとしてどう応えて行つたらいいのか——それが経営理念の「思い出を写真に撮る喜び、みんなで写真を見る幸せ、後世に残す感動を提供する」ということでした。

「いわゆる量販店的な『売ってなんぼ』の商売ではない、写真を撮るの楽しさを伝えること、写真を残す感動を提供すること、それが同社のサービスのスタンスです。」

「写真のおもしろさを知っていただく入口の役割や、さらに深く知るための道案内役ですね」
そのためには、社員の勉強会も徹底して行ないます。
「私と専務で、週3日は店舗を回り、2時間ずつ勉強会をしています。日曜日は本部で、社員のランクによってさまざまな勉強会をしてもらい、月曜日には店長など幹部スタッフ対象の勉強会を行なっています」
それだけの勉強を行なっているからこそ、お客さまに的確なアドバイスができるのでしょう。
「今後も、写真の楽しさを伝えるビジネスをしていきたいですね。と同時に、機会があれば海外へ行つてみたいとも、思っています」
地域の写真文化の担い手として、今後もより一層の活躍を期待しています。



「おしゃれ」「かわいい」「かっこいい」がコンセプトの店舗

本社社屋

経営理念

私達サトーカメラは
個性と独創性を大切にし、
あらゆる多様性を認め受け入れ
1人でも多くのお客様にありがとうと
喜んでいただくこと。
写真に対する常識を変え
本当に良い写真、今までに無い
新しい価値を持つ写真を創造し
地域のありとあらゆる人々に
思い出を写真に撮る喜び
みんなで写真を見る幸せ
後世に残す感動
を提供します。

Information

サトーカメラ株式会社
代表取締役社長 佐藤 千秋
創業 昭和39年(設立 昭和50年)
住所
本社 宇都宮市堀東3-27-15
☎ 028-613-6681
☎ 028-613-6685
http://www.satocame.com

サトーカメラ株式会社
代表取締役社長 佐藤千秋氏

